

令和 元年 6 月 17 日現在

機関番号：12613

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0042

研究課題名（和文）冷戦期トランスパシフィック・アメリカ文学研究 制度形成と美的形態の動態的交渉（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Transpacific American Literary Studies and the Cold War: Institutional Formations and Aesthetic Forms (Fostering Joint International Research)

研究代表者

井上 間従文（INOUE, MAYUMO）

一橋大学・大学院言語社会研究科・准教授

研究者番号：50511630

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,000,000円

渡航期間： 12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究課題は代表者が基課題にて進めて来た環太平洋における戦争の記憶をめぐるアメリカ文学研究を映像・映画研究分野へと架橋するための1）理論的視座の提示および2）こうした研究を可能とする国際的研究者ネットワークの構築を目的とした。1年間に渡るUCバークレー校の修辞学及び映画・メディア研究科での客員研究員としての滞在中、近年米国にて発展の著しいメディア・エコロジー論を批判的に受容・検討し、1970年代以降の米国における記憶の表現の位相の理論化に務めた。また、韓国系アメリカ人詩人・映画作家Theresa Hak Kyunh Chaの映画理論とジェンダー理解をめぐる国際的研究ネットワークの構築を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して急激にメディア研究へと舵を切る米国のフィルム・スタディーズの文脈から、これまで文学作家とみなされることの多かったTheresa Hak Kyung Chaの戦争と記憶をめぐる作品群をトランス・メディアルな総体として検討する理論的視座を提示した。これは米国の様々な作家や美術家の作品を複数の芸術媒体の交差点から検討しなおすために今後貢献しうるものである。

またメディア研究におけるカンギレム、シモンソン、フーコーの受容を批判的に検討し、権力装置論と映画装置論をより厳密な方法で接続する作業を行った。これらを国際的研究ネットワークの構築を介して推進したことも本研究の社会的意義の一つである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project was twofold. First, I have sought to delineate a productive intersection between transnational American literary studies and studies of transmedial artworks that explore memories of wars in the Asia-Pacific. Second, I have sought to organize an international network of scholars with whom I can engage in a collaborative project that foregrounds the above-mentioned topic about literature and arts in the context of the Pacific. During my year-long stay in the Departments of Rhetoric and Film and Media at UC Berkeley, I have tried to critically examine the degree to which recent theorizations of "media ecology" might be of use in illuminating this nexus between literary and visual artistic inscriptions about historical memory in the Pacific.

I have also done some ground work in establishing a loose network of international scholars who work on the oeuvre of Korean American poet and visual artist Theresa Hak Kyung Cha.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：トランスナショナリズム 映画研究 メディア研究 テレサ・ハッキョン・チャ 記憶 美学理論 アメリカ研究

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題の基課題ではトランスパシフィック（環太平洋）地域における20世紀の戦争および帝国の暴力をめぐる記憶が文学表現のフォーマルな特徴として表現され、多様な読者たちに分有される方法と過程を研究の対象とした。その中でさらなる研究の必要性が痛感されたのが文学作品における記憶のイメージと、映画・映像作品において「詩的」とも称されるような物語性を超えた喚起力をもつイメージとの共通性、関連性、そして差異をめぐる問いである。代表者がこれまで研究の対象としてきた Charles Olson、Theresa Hak Kyung Cha といった米国の詩人や詩的テクストの執筆者は、Stan Brakhage、Maya Deren、Thierry Kuntzel、Samuel Beckett、Jean-Louis Baudry といった米国やフランス等の映画作家や映画理論家たちと議論、交流、協働などをとおしてその詩作を行った。同様に、ここで列挙した映画・映像作家および理論家たちにおいては映像の「詩的」な側面とはなにかをめぐる思考と実験が一貫して模索されて来た。

しかし、学際的な文学研究が進んでいるはずの英語圏でも、詩的イメージと映像の詩学とを理論的に厳密な水準から架橋する研究成果は驚くほどに少ないのが事実である。もちろん2000年代以降の文学研究では Susan McCabe の *Cinematic Modernism: Modernist Poetry and Film* (2005) や Christophe Romana-Wall の *Cinemoetry: Imaginary Cinemas in French Poetry* (2012) など重要な先行研究があるが、これらはいずれも狭義のモダニズム作家たちが第二次大戦期以前の映画の勃興期に映画・映像表現から受けた影響をめぐるものであり、詩的文学と映像詩学との相互関係を同列に扱う双方向的な研究ではない。

また本研究は Jean-Luc Nancy が *Muses: Multiple Arts* (英訳は1994年)、Rosalind Krauss が *A Voyage on the North Sea: Art in the Age of the Post-Medium Condition* (1999年)などで前景化した複数の身体感覚と複数の芸術媒体それぞれにおける内的な不完全性と未完成性が、未曾有の共同性を組織しようというより理論的かつ萌芽的視点をその根底に据えている。

## 2. 研究の目的

研究の目的は第一に上記に述べたように人文学の区分において、往々にして分断されたままにある詩分野におけるイメージ研究と映画・映像分野における「詩的なもの」の位相をめぐる研究を理論および作品読解の双方で架橋することである。この作業をとおして浮上する第二の目的として、20世紀のトランスパシフィック地域における戦争と帝国の暴力をめぐるアメリカ文学作品においてなぜ詩を筆頭とする文学作品が映画のイメージを重視したのか、また、ある詩人たちは映画理論を執筆し、さらには自身が映画製作に関るまでに至ったのかを明確にすることを設定した。さらに第三の目的として、1960年代の新たな社会運動の進展に呼応するかのようにして米国の大学にて急速に制度化された映画研究および映画理論の特徴、潮流、諸雑誌などを精査し、こうした映画研究や映画理論が翻って同時期以降の文学作品に与えた影響を調査することを掲げた。第四に、こうした三つの目的意識を、トランスパシフィックという具体的な地政学空間に据え直すことで、米国における文学と映画・映像の方法論的展開と、帝國的な社会編成の変容との間に横たわる亀裂や齟齬を明確にすることに努めた。

また国際共同研究強化という本科学研究費の目的に則り、上記の四つの目的意識を共有する国際的研究者たちによる緩やかなネットワーク形成をより実践的な目的として設定した。

## 3. 研究の方法

研究の方法としてまずは第一に滞在先の UC Berkeley 校、Film and Media Studies Department にて、同研究科が重点的に研究を進めているメディア理論、特にカンギレム、シモンドン、フーコーなどにおけるメディアを含む権力装置とイメージをふくむフォーム（形式）との関係性と相互変容に関する理論的著作の読解を行った。この研究作業の過程では代表者の受入を担当していただいた Trinh T. Minh-ha 氏（同研究科教授、映画作家）をはじめとする複数名の同研究科の研究者の方々からの協力を仰いだ。

第二の方法論として、実際にトランスパシフィックの戦争の記憶を詩作品に刻印する過程で、映画・映像メディアの特徴に大きな影響を受けた Charles Olson、Theresa Hak Kyung Cha といった米国の詩人および作家についての具体的な調査を行った。Olson に関しては Association for the Study of Arts in the Present (ASAP) など学際的人文学の学会に参加し、共通する視点を持つ Olson 研究者たちとの交流機会を得ることができた。Cha に関しては、滞在先の UC Berkeley の附属施設である Berkeley Art Museum にある Theresa Hak Kyung Cha Archive を複数回訪問し、綿密な資料収集を行い、また Cha の親族および教師とも直接のコンタクトを取り、作家に関する詳細な調査および作品資料の収集を行った。またこの調査を通じて米国およびフランスの Cha 研究者たちとのネットワーク形成を行うことができた。

第三の方法論として、上記二つの研究手法を統合するために、美学理論におけるイメージ、形象、図式を社会諸関係における人種、ジェンダー、ナショナリティをめぐる想像力との関連において再検討するための基礎的研究を行った。ここでは The New School における Hannah Arendt の政治理論と美学理論の双方を検討するセミナーへの参加、さらにはブラジルの Campinas 市で開催された Gilles Deleuze に関する学会での Deleuze の諸器官の離接的総合論 (theory of disjunctive synthesis) についての論文発表など、おもにカント美学の政治性をめぐる議論の場への

積極的な参加を行った。

#### 4. 研究成果

主な研究成果としてまず第一に、本研究終了直後に刊行された英語共編著書 *Beyond Imperial Aesthetics: Theories of Art and Politics in East Asia* (Hong Kong University Press, 2019)が挙げられる。同著は Steve Choe 氏 (San Francisco State University, Film Studies, 准教授) との共編図書であるが、文学、映画、写真、建築、演劇を横断する美的フォームと社会編成との緊張関係をめぐる諸研究者の論文を12編収録した。序章は代表者が第一筆者であり、また第7章は代表者による米軍統治期沖縄における抽象画の位相をめぐるものである。同図書の編集および執筆作業は本研究の開始以前から始まっていたものであるが、本研究の実施期間中に得られた映画・映像理論および美術史分野での方法論的知見や理論的視座を十分に活用することができた。

また Charles Olson における「客体」が「主体」におよぼす変容の可能性について台湾比較文学会の招聘のもと、基調講演を行うことができた。1960年代沖縄の詩人清田政信におけるシュルレアリズムの影響が色濃いイメージのあり方と、米軍統治がもたらす人種イメージとの生産的な齟齬のあり方についてニューヨーク市立大学開催の Japan Studies Annual Lecture への招聘をうけて講演を行った。前述の論文集 *Beyond Imperial Aesthetics* に関しても刊行以前に既に研究者間での一定の評価を受けたため、UC Berkeley Center for Japanese Studies にて招聘講演を行った。

また重要な成果としては、メディア研究、美術史、映画研究などに携わる多くの英語圏の研究者たちとの共同作業や議論を通してネットワーク形成を行ったことが挙げられる。特に Cha に関しては米国とフランスの Cha 研究者たちと知り合う機会に恵まれたため、今後の国際学会でのパネル実施と、それに基づく成果発表を行う作業を共同で構想中である。この Cha に関する共同研究は美術史、映画研究、文学研究、アジア系アメリカ文学研究等、多分野の研究者たちが集うものであり、また研究者たちの英語以外の使用言語もフランス語、韓国語、日本語を含む国際的なものである。こうした人的つながりの形成が行えたことを本研究の成果の大きなものの一つとして挙げたい。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. Mayumo Inoue, "Nations in Shame and Art's Shame: Towards a Radical Politics of Image and Affect around 'Okinawa.'" *Inter-Asia Cultural Studies* Vol. 19, no. 4, 536-550, 2018. DOI: 10.1080/14649373.2018.1543306 査読有

2. Mayumo Inoue, "Review: Undoing the Form/Matter Divide in Avant-Garde American Poetics." *Criticism: A Quarterly for Literature and the Arts*. Vol. 59, no. 3. 501-505. 2018. DOI: 10.13110/criticism.59.3.0501 査読無

3. 井上間従文, 「結晶たちの「ヒロシマ」—諏訪敦彦の『H Story』と『A Letter from Hiroshima』」「忘却の記憶 広島」月曜社, 2018. (図書所収論文) 査読無

4. Mayumo Inoue, "The Inter-State 'Frames of War': On 'Japan-US Friendship' and Okinawa in the Transpacific" *American Quarterly* vol. 69, no.3. 491-499. 2017. DOI: 10.1353/aq.2017.0043 査読有

〔学会発表〕(計 8 件)

1. Mayumo Inoue, "Beyond Imperial Aesthetics: Theorizing Art and Politics in East Asia." Association for Asian Studies Annual Conference, Denver, 2019.

2. Mayumo Inoue, "Beyond Imperial Aesthetics: Theorizing Art and Politics in East Asia." Theorizing beyond Imperial Aesthetics in East Asia, UC Berkeley, Center for Japanese Studies, 2019.

3. 井上間従文, 「「帝國的編成」の動態性について—アーカイブ、情動、諸力」, 国際シンポジウム「帝国(間)を巡る人流—多様な帝國的主体の離散と集住」, 同志社大学, 2018.

4. Mayumo Inoue, "The Production of Amateurs." "Souths of Asia: Aesthetics, Theory, Archive," A Joint International Workshop with Asia Theory Network, National Taiwan University, 2018.

5. Mayumo Inoue, "The Aesthetic "Routing" of the Common in Deleuze and Nancy." 11th International Deleuze and Guattari Conference, Brazil, Campinas, 2018.
6. Mayumo Inoue, "Objects in Resistance: A Surrealist Current in Post-war Okinawa." The CCNY Annual Japan Studies Lecture. City College of New York. 2018.
7. Mayumo Inoue, " 'Becoming 'Objects': Charles Olson's Field Poetics in the Transpacific." The Twelfth Quadrennial International Comparative Literature Conference: Literature, Life, and the Biological. Tamkang University, 2018.
8. Mayumo Inoue, " 'Form-giving Fire' in the Field of Race: On Poetic Forms and Living Labor." Association for the Study of Arts of the Present/9 (ASAP9), Oakland, 2017.

〔図書〕(計 1 件)

1. Mayumo Inoue and Steve Choe (Eds.), *Beyond Imperial Aesthetics: Theories of Art and Politics in East Asia*. Hong Kong University Press, 2019. 325 pages.

## 6 . 研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：トリン・T・ミンハ

ローマ字氏名：Trinh T. Minh-ha

所属研究機関名：カリフォルニア大学バークレー校

部局名：修辞学(Rhetoric)研究科

職名：教授

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。